

地鉄立山線（岩峯寺駅～立山駅間）の今後の方向性について

1 観光路線として位置づけ、鉄道線としての存続を目指す

（１）立山黒部アルペンルートへのアクセスとして重要

- ・利用状況 アルペンルート全体で 82.4 万人

うち約 10 万人（約 12%）が地鉄立山線を利用して訪問

- ・大量輸送と定時輸送の両方が可能
- ・二酸化炭素の排出量減少とアクセス道路の混雑回避が可能

⇒ 鉄道線の優位性を活かして、観光振興と地域活性化を図る

2 地鉄立山線（岩峯寺駅～立山駅間）の持続可能性を高める

（１）観光路線としての今後の利用者増を目指す

- ・ＴＫＫの営業活動の強化
- ・行政と民間事業の連携によるプロモーション強化

（２）運賃の引き上げ

- ・運賃引き上げによる増収を図る

⇒ 利用者増と運賃引き上げにより、持続可能性を高める方向で検討

3 今後検討すべき課題

- （１）立山黒部アルペンルートの経済波及効果等の明確化
- （２）現在、立山町で実施されている調査の早急なとりまとめ
- （３）今後必要な経費の見積もり（運行収支不足と基盤維持費用など）
- （４）行政側の財政負担（事業規模とそれぞれの負担額）の明確化